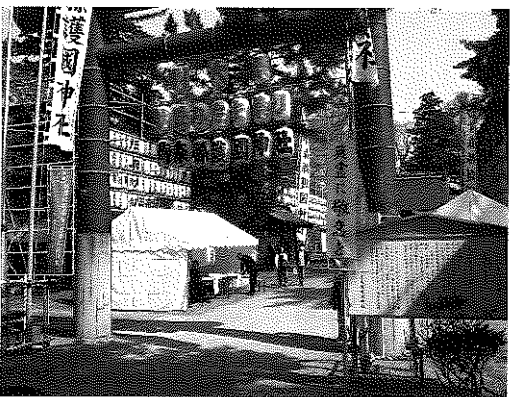


青森県偕行会は、護國神社第七十回例大祭に合わせて4月29日、弘前市にある青森県護國神社内苑において、例大祭参列後に花見を行った。青森市から参列された伊藤会長を中心に、制服で参列された第39普通科連隊長兼ねて弘前駐屯地司令の北島一(はじめ)一等陸佐を迎えて、会員19名が参加した。

例大祭は三村青森県知事を始め、櫻田弘前市長など来賓約50名、1000名を超えるご遺族などが出席し午前10時半に齋行された。同神社は明治維新以後の数々の戦争で亡くなられた御英霊2万9181柱を祀っている。

同神社は弘前公園四の丸に鎮座し、21日からは全国一といわれる「弘前さくらまつり」が開催され、連日30万人を超え



る花見客で賑わっている中での神事で、多くの花見客が同神社を取り巻いた。

例大祭当日は、早朝に神門に「英霊に敬意を」の垂れ幕と、偕行社の幟旗を掲げ来詣者に慶ばれた。

花見は、例大祭終了後の午後零時に伊藤哲也会長仙幼49期の挨拶で始まった。

次いで、北島連隊長の乾杯の発声で歓談が始まり、半年ぶりの交流の輪を広げた。

偕行会の花見は、7年前の平成23年に伊藤会長以下5名で始まり、今年は21名と毎年増え続けた。

護國神社例大祭は毎年29日と決まっているが、桜の開花日は毎年異なる。

今年は主力種の染井吉野の開花が早まり七分散りとなったが、紅枝垂れ桜や八



重桜の関山は見頃となった。

歓談の途中には、例年のように齋藤毅宮司から御神酒の提供があり盛り上がった。酔う前には集合写真撮影の提案があり、「青森県偕行会」の横幕を前に、にこやかに撮影された。

3時間に及んだ花見は、秋の総会及び正式参拝での再会を期して護國神社・弘前公園を後にした。

事務局長 稲村孝司 陸自75 記